そこに声があれば

～今　未来に～

脚本　丸尾聡

登場人物

コイズミ　松本

マサト　山口みさ子

ユウスケ　ヨルゲン・フリードネス

カズミ　河野洋平

ゆあ　田中熙巳

栗平　和田征子

岩佐幹三（いわさみきそう）　「証言者」の方々　ほか大勢の人々（セリフは数字で示されている）

母

男

＊複数の役を一人が兼ねても良い。初演は女性13名、男性5名で演じた。

＊は初演時（４０分版）の演出メモ。照明や音響や映像の指定があるが、なに、そんなものはなくても、ただ台詞を口に出して読み、聞くだけで、何かが生まれると思っている。

S1

＊音楽

ほぼ何もない空間に椅子だけが並んでいて、出演者たちが座っている。あるいはこれから座る。やがて。

＊学生が模擬発表の準備をする、「証言者たち」を迎え入れる、といった体で椅子を並べた。証言者たちが現れ、その後は劇の最後まである時は、学生たちを見守り、ある時は話しかけるようにした。

1　ふたたび被爆者をつくらないために。
2　（証言者たち）　ふたたび被爆者をつくらないために。
3　原爆は、被爆者たちの、体だけでなく容赦なく心も傷つけた。
4　その傷ついた人たちが、その苦しみと闘いながら、それでも声を上げ、訴えを続けてきた。さらに傷つくこともあっただろうに。
5　ふたたび被害者をつくらないために。
6　戦争体験者、原爆の体験者は、かくじつにいなくなっていく。
7　（証言者たち）　ふたたび被爆者をつくらないために。
8　私たちはどうすればいいのだろう。

＊映像　そこに声があれば　今、未来に

＊映像をかき消すように、戦闘機の音。

飛行機の音。プロジェクターなどで「そこに声があれば　いま未来に」と映し出されると良。学生たち四人が現れる。

S2

9

１９４５年、８月６日午前８時１５分、広島市の上空約６００メートルで、三日後の９日午前１１時２分、長崎市の上空約５００メートルで、アメリカ軍が投下した原子爆弾がさく裂した。（原爆の音などが入ると良）

＊衝撃音的なのㄇを使用。

コイズミ　岩佐幹三さんは、広島の爆心地から約1・2キロメートルの自宅で被爆しました。

岩佐　十六歳の夏。秋には陸軍航空士官学校受験予定の軍国少年だった。それまで学徒動員で軍需工場に通っていたが、その日は家にいた。朝から暑く川に泳ぎに行こうかな・・・と思いながら、庭先の半坪ほどの畑に植えたカボチャに雌花がついていないか探していた。そのとき、北の方から聞きなれたB-29と違った爆音を聞いた。「まだ日本には飛行機があるんじゃ！」と思った。家の前の通りで子どもたちの「飛行機だ、ヒコーキだ」といった声を聞いたとたん、後頭部に「ガーン」という強い衝撃を受け、地面に叩きつけられた。一瞬、バットで殴りつけられたと思

い、「誰がやりやがったんだ、もう一度やられたらお陀仏だ」と思って逃げようとした。ところが立ちあがろうとしても上から何か強い力で押さえつけられ立つことができない。目の前は、自分の鼻先も見えないほど真っ暗。必死になって這っていったら材木らしきものが手に触った。

「おかしいのう・・・こんなところに材木なんかあるはずがない・・・」と思っているうちに、黒いほこりのようなものが立ち昇っていってあたりはだんだん薄れ、明るくなってきた。最初に目に飛び込んできたものは瓦礫と化した街の風景と、いつもは街が遮っていて見えない、比治山（ひぢやま）だった。そして倒壊した家屋のあちこちで火の手が上がっている。一瞬にして街が消えていた。なにがおこったのかさっぱりわからなかった。

コイズミ　原子爆弾がそれまでの兵器と比較にならない特徴の一つが、５千度という強い熱線を出し、秒速３０５メートルもの爆風を起こすことです。

岩佐　自分の家もぺしゃんこになっていた。すぐ気がついたのは、倒れた家の下に母がいることだった。

「お母さん！」

母　「ここよ」

岩佐　「あ、生きとる」

声がしたのは大屋根がどさっとつぶれたあたり。材木の山を乗り越えて、屋根瓦をはがし、土壁を手で掘ったが、大きな梁がどかっと乗っかり行く手をはばんでいる。隙間からのぞくと、わずか一メートルくらい先に倒れて、目のあたりから血を流している母の姿が見えた。

「こちらからはもう進めんのんじゃけど、動けんね。」

母　「左肩を押さえているものをどけてくれんと動けんよ。鋸か梃子を持ってきてどけてくれんね」

岩佐　家がつぶれているのだから、そんな道具は探しようがない。そのとき、逃げてきたらしい近所の四人家族が通りかかった。手伝って欲しいと頼んだが、

男　「それどころじゃなーわ、こっちだかて大変なんじゃけん・・・」

岩佐　と立ち去ってしまった。すでに街全体が燃え上がっていて、火の手は近づいてきていた。別のほれそうな場所を探して材木を取り除いているうちに、火の手はますます近づき火の粉が降り注いできていた。気が気でなく、動転していた私は母にとんでもないことを言った。

「もうだめじゃ。先に父さんのところへ行ってくれんさい。ぼくも、あとからアメリカの軍艦に体当たりして逝くけー」。

まだ生きている、手の届くところにいる母を見捨てて、去年亡くなった父さんのところへ行け、自分は逃げると言ったのだ。「冷たい子だ」と

恨みごとのひとつもいわれても仕方のない場面なのに、逃れるすべのないことを悟ったのか、母は静かに、

母　「なら、逃げんさい。」（般若心経を唱える）

岩佐　その声に後ろ髪を引かれながらも家から離れた。

S3

コイズミ　今、ご紹介した岩佐幹三（みきそう）さんは、日本原水爆被害者団体協議会の代表委員、顧問を務め、被爆者調査・国の内外の証言活動などに取り組み、オバマアメリカ大統領の広島訪問にも立ち会いました。そして２０２０年、

亡くなりました。原爆のその爆発時の被害の壊滅的な大きさ、そして、その後長く続く、放射線の影響。後から家族の捜索や救助のために市内に入った人も、急性放射線障害のために次々と命を奪われました。その年の末までに、広島では１４万人あまり、長崎では７万人あまりの方々が亡くなっています。かろうじて生き残った人々も、原爆による死の不安の中で、その後生きていくことを強いられました。そして、

ゆあ　すいません。

カズミ　ちょっと、ゆあちゃん。まだコイズミ先輩の発表の途中だって。

コイズミ　どうしたの。

ゆあ　あの大変だったってことはわかるんですけど、なんか、ダメっていうか・・・

コイズミ　岩佐さんの体験、すごいもんね。ゆあちゃん、今日はもう帰っても、

ゆあ　そうなんですけど、それだけじゃなくて・・・

マサト　なんか関係ないって、感じなんじゃない。

コイズミ　え。

マサト　っていうか、今の俺たちと遠すぎてさ。

ユウスケ　おいおい、マサト、俺たちは戦後史を勉強している大学のゼミのチームなんだからさ。

マサト　じゃあさ、ユウスケ、なんで、何を？　勉強してるか説明してくれよ。

ユウスケ　歴史から学ぶってことじゃね。

マサト　だから、何をどう学ぶんだよ。戦争は、原爆は悲惨だった、っていうのは分かるよ。それが俺たちと・・・、とにかくモヤモヤするんだよな。

ああ、入るゼミ間違えたかも。

ユウスケ　ええ、じゃあ、やめんのかよ。

カズミ　あんたたち、よしなさいよ。

マサト　じゃあ、カズミ説明してくれよ。

カズミ　できない。

マサト　はあ？

カズミ　だって、あたしたち、原爆のことちょーっと、ちょーっと勉強し始めたところじゃない。分かるわけ・・・

＊LINE着信音。これは電話ではなく。

コイズミ　ちょっと待って。松本先生からLINEきた。

松本　松本です。今日は学会があって欠席で申し訳ない。模擬発表はどうでしたか。もしかして混乱している人もいるかもしれません。そこで、えへ

ん、先回りして、ある人から話を聞けるように段取りました。被団協がなぜノーベル平和賞を受賞したか。話を聞いて考えてみてください。

マサト　被団協？

コイズミ　さっき言ったでしょ。日本原水爆被害者団体協議会。

ユウスケ　何しているところだっけ。

コイズミ　その、ええと、被爆者の証言とか、集めてるところ、かな。

マサト　かな？

松本　おお、混乱してるな。

マサト　聞こえてんのかよ。

松本　いや、先生、用意周到。さすがだなあ。それではその方の連絡先は別に送ります。では。

カズミ　著しく気勢を削がれたわね・・・

ユウスケ　・・・俺の発表、今度でいいですかね。

コイズミ　そうしましょう。今日は解散。

皆、退場、が。

S4

コイズミ　あ、ゆあちゃん、これ。今日の発表の元ネタの本。（と渡す。）もちろん、読んでも読まなくても。それじゃ。

＊朗読劇なので、みな台本を持っているが、コイズミがこの時まで使っていた

「台本」をゆあに渡す演出にした。

コイズミ、退場。ゆあのみ残る。そっと静かに本を開く。

＊劇中歌、「そこに声があれば」のインストルメンタル。

10 炭になった弁当　焼き付いた影　止まった時計

11 そこには暮らしがあった　声があふれてた。

12 赤く焼け爛れて膨れ上がった屍の山。

13 眼球や内臓の飛び出した死体。

14 黒焦げの満員電車。

15 髪を逆立て、ずるむけの皮膚をぶら下げた幽霊のような行列。

母 倒れた家の下敷きになり、生きながら焼かれた人々。うちもその一人じゃった・・・

ゆあ、本を閉じ、走り去る。学生たち再び登場。

S5

カズミ　ゆあは？

コイズミ　連絡なし。

ユウスケ　来ないんかな。

マサト　やめちまうとか。

コイズミ　彼女が決めることだから。

少し沈黙。破るように。

ユウスケ　ああ、そうだそうだ。この前、俺が発表予定だった「原爆被害に対して日本政府やアメリカが何をしたか」だけど、やっぱひどいと思ったな。ええと、原爆を開発したマンハッタン計画副責任者のトーマス・ファーレル准将は、東京で海外特派員に「広島、長崎では死ぬべきものは死んでしまい、9月上旬現在において、原爆放射能のために苦しんでいるものは皆無だ」と述べた。

カズミ　それって嘘だよね？

ユウスケ　日本を占領したＧＨＱは、新聞事前検閲を開始、以後原爆報道は影を潜める。で、日本政府は被害者や戦災孤児を見捨てたんだ。

マサト　え？

ユウスケ　救急救護所は、被爆２ヶ月後に閉鎖。被害者は治療もないまま苦しみ続けた。

カズミ　そんな・・・

ユウスケ　それだけじゃない。アメリカの原爆障害調査委員会が、広島赤十字病院に事務所を設置。ただこの委員会は。将来の核戦争を想定した調査研究機関で、治療は行わず、被害者のデータを集め、その資料をアメリカに持ち帰った。原爆投下からほぼ１０年の間、アメリカと日本政府は、原爆被害の実態を究明しないだけではなく、隠蔽して、被害者の治療にも当たってこなかった、ってことみたい。

マサト　だけどさ、仕方ないところもあるんじゃないの？

ユウスケ　どういうこと？

マサト　だって、戦争に負けちゃったわけだし、そのＧＨＱ？　日本は占領されてたわけだし、国も国民もみんな貧乏だったろうしさ。

栗平登場。

栗平　政府の姿勢は今も変わっていないの。

コイズミ　あ、もしかして栗平さんですか。

栗平　はい。「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の栗平です。その前は、被団協の事務局員として、調査や活動をしてきました。

コイズミ　今日はありがとうございます。

カズミ　今も変わっていないってどういうことですか？

栗平　そのことを説明するためにも、被爆者たちが、自分達自身で、どんな活動をしてきたか、少し話をさせてください。原爆から十年、この時期に沢山の人が亡くなっていった。そして、各地に散っていった多くの人は知らなかった。自分の具合が悪いのが、原爆の被害であることを。それを知るきっかけはビキニ事件でした。

学生たち　ビキニ事件？

栗平　日本が長崎・広島に続いてうけた原子力による被曝です。

S6

＊音楽

＊学生たちは、舞台前面に客席に背を向け座り、話を聞くようにした。以降、何回かそのやり方を使った。

16

アメリカは、戦後9年にあたる1954年、太平洋のビキニ環礁で水爆実験をおこなった。

17

広範囲に「死の灰」がふり、マグロ漁をしていた第五福竜丸の乗組員二十三人が被曝。

18

無線長、久保山愛吉さん、四十歳の若さで死亡。最後に残した言葉は、

19

「原水爆の犠牲者は、わたしを最後にしてほしい。」

20

漁師たちも怒った。

21

俺たちの457トンのマグロは埋められた、原爆マグロなんて言われてよ。みんなで集まろうや、原水爆実験なんてとんでもねえ。

栗平　漁師たちだけでなく、母親や主婦をはじめ、多くの人が声を上げた。原水爆実験反対、原水爆禁止の署名運動がすごい勢いで全国に広がったの。

＊音楽。前の曲と乗り替わり、少し高揚感のある音楽にした。

２２　被爆一〇年の翌１９５５年、原水爆禁止世界大会が被爆地広島で開かれた。大会は原水爆実験反対の署名集計数を、３２１６万７０９筆と発表。

栗平　その大会の初日、核兵器の被害者を代表して、三人の方が訴えた。そのうちの一人、長崎で被爆された山口みさ子さん。

山口　あの日から１０年、毎日毎日が苦しみでした。・・・この苦しみがみなさんにわかっていただけるんでしょうか。戦争さえなかったら、原爆さ

えなかったらこんな惨めな姿にはならなかったのです。だれにこの苦しみを訴えて良いかわからずに、何度死のうかと思ったことでしょう。けれど・・・私たちが死んでしまったらだれがこの苦しみを世界に知らせてくれるのですか・・・どうかここにお集まりの皆さん、こういう苦しみをくりかえさぬよう・・・

栗平　原爆の被害が、大勢の前で語られるのは、そして被爆者が語るのはほとんど初めて。それから、全国各地で被爆者の体験を聞く運動が始まり、それは被爆者を探し、組織を作ることにつながり、各地に被害者の会が結成されていった。

カズミ　それが、日本原水爆被害者団体協議会、被団協になるんだあ。

栗平　その通りです。国民的運動の広がりに励まされて、被爆者自ら立ち上がった意味は、とても大きかったと思います。

１９５６年８月１０日。日本被団協結成大会宣言。

原爆から十一年あまりたった今になって、私たちは、はじめてこのように全国から集まることができました。あの瞬間に死ななかった私たちが今やっと立ち上がって集まった最初の全国大会なのでございます。

私たちは今日の集まりで亡き人々をしのび、又長い年月のかぎりない思いを互いに語り合いました。

しかし、それは決してひとときのなぐさめや、きやすめのためではありませんでした。

手をつないで決然と立ち上がるためにほかなりませんでした。世界に訴うべきは訴え、国家に求むべきは求め、自ら立ち上がり、たがいに相救う道を講ずるためでありました。

２８　かくて私たちは自らを救うとともに、私たちの体験をとおして人類の危機を救おうという決意を誓い合ったのであります。

２９　私たちは今日ここに声を合わせて高らかに全世界に訴えます。人類は私たちの犠牲と苦難をまたふたたび繰り返してはなりません。

＊セリフ２９は三人で読んでもらった。

Ｓ７　コイズミ　被団協結成に至った経緯はよくわかりました。

ユウスケ　あの、栗平さんは、被団協がノーベル平和賞を受賞したのはなぜだと思いますか？

コイズミ　直接的すぎ。

ユウスケ　なんでぇ。

栗平　そうね。一つは、結成の宣言を胸に、声を集め続けた、声を上げ続けた、声を届け続けた、っていうことだと思います。原水爆禁止運動の分裂もありました。でも、壁にぶつかるたびに、対話を重ねてきたと思います。

カズミ　そうした活動を続けてきて、でも政府の姿勢は今も変わっていないっておっしゃいましたよね。

栗平　政府の戦争責任を問い、国家補償を要求する声が大きくなってきた、それに対して、国は、

コイズミ　１９５７年、原爆医療法施行、１９６８年特別措置法公布。

栗平　あら。

コイズミ　勉強してきました。でも、ちょっとよくわからなくて。

栗平　医療法は、原爆の被害を放射線の被害に限定したし、特別措置法はいくつかの手当を新設したものの、病気や年齢、所得の制限を設けた社会保障制度で、最大の被害者である死者に対しての国家補償もない、とても被害への償い、と言えるものではなかったの。

カズミ　それでどうしたんですか。

栗平　１９７７年「被爆の実相とその後遺・被爆者の実情に関する」初めての国際シンポジウムが、日本で開かれることになりました。それに向けて、日本被団協や専門家や市民団体が協力して、「原爆は人間に何をなしたか、人間は原爆に対して何をなすべきか」をテーマに、約４０００人の調査員によって、約８０００人の被爆者の調査が行われたの。「この調

査の過程で、調査する側も、調査される側もともに変わった」と言われています。

S8

＊音楽

30 集まった証言から。あなたに声をかけた人がありましたか。その人は助けを求めましたか。その時助けてあげることができましたか。

31 「自分も鬼にならないと生きられない。死体を踏肇（ふみこ）こえて行かなくては。」

32 「人を助けることを忘れてしまった。自分のお母さん，子どもに一生懸命になって忘れてしまったの。」

33 「子どもが下敷きになっとりました。助けてくれー、いわれるんじゃけど，その声を聞いて，まあ，逃げたようなもんで……。」

34 「子供がかわいそうだった。自分のけががなおって，結婚して子どもができて，はじめてそう思った。」

35 「それ助けよったら，私が死んでしまう。焼け死んでしまう。あのとき，私が助けられたとしたら，助けられるんだったら，してあげたらよかったいな　あ。そやけに，私や＊今にこんなばちが当っこないになるのかと思う。」

＊広島弁。「当っこない」→「当たりっこない」「今に、ありっこない大変なひどい目にあう、ことになるのかなと思う」

36

「助けてくれえって、あっちでもこっちでもいうのに，人ひとり助けずに、わが身だいじと思ってにげまどったっていうことが、今でも忘れられないですね。何か自分が苦しくて、助けてくれというようなとき、人が黙って行ってしまうという夢をみます。」

37

「家族，親戚の人に対してではなく、広島で死んだ人に対して、自分だけ生き残って申しわけないと思っている。」

38

「子供を捨てて逃げました。下に火が来るので恐ろしくなり、後ろ髪引かれる思いで。」

マサト

くそ、親に子供を捨てさせるなよ。

38・2　「逃げた河原で子供のことだけを思っていたが、泣けなかった。腑抜けのようだった。」

39　被団協は1985年にも大規模な調査を行なっています。

40　「小学校二年の時です。一瞬の出来事から人生の表から裏へと急変し、目に映るものは生き地獄としか言えないあの日のことは、思い出すのも辛いです…。ボロボロの格好で死んでいく人たちを黙って見るほど、全てが狂い、地獄だったのです。人間であれば人間らしい死に方をさせてあげたかった。」

41　「我が家にたどり着くまで、泣き声や叫び声のほか、人の話し声を一言も聞かなかったこと、出会った人が皆無表情だったことを思い出します。後で考えるとあれは人の世ではなかった、あの世の地獄を目の当たりにしたように思います。何を見ても何を聞いても感じない。神経も麻痺し

てしまっていたと思います。異常な状態の中で人間は人間でなくなるということを知りました。本当に怖いです。」

４２

「あの時の話に触れると、落ち着かなくなるし、胸が締め付けられて息苦しくなる。無理に話そうとすると、精神状態が変になりそうで、とても話せない。弟の死に様が目に焼き付いている。あの時、呼んでも答えがなかったので逃げたが、ただ気を失っていただけではなかったか。そのことを思うと五臓六腑がヒラヒラと動く。」

４３

やっと原爆の中から生き延びて苦しい生活に耐えてきたのに、白血病と診断され、その悲しみは何事にも代え難いものでした。１８歳まで生きてきたのに、苦しんで死んでいった弟は、今でも忘れることはできません。

44

45

S9

結婚の時、主人に「原爆にあったことは秘密」にしておくように言われ、ショックであった。今でも、周り、主人の一族は、知らない。

「父、母、兄、妹を殺され、遺体もなく、最後どんな様子で死んだのかもわからない。あれから64年忘れられない悲しみ、苦しみを引きずっている。心の痛みにつける薬はない。私もあの時、両親と死んでいた方がよかった、と今でも思う。」

いつの間にかゆあが聞いていた。

ゆあ　さっき、「この調査の過程で、調査する側も、調査される側もともに変わった」とおっしゃいましたが、どういうことですか。

マサト　ゆあ。

ゆあ　遅れてすいませんでした。

４６　調査員を務めていた一人です。お答えします。原爆が人間にもたらした被害が、被爆後３０年以上経っても、なお継続、拡大し続けていて、それは健康上、生活上の苦しみにとどまらず、こころにまで終生消えない傷を残している事実を目の当たりにしました。同時に、それほどの苦しみを乗り越えて生きようとたたかっている人間の姿にも触れることができました。

４７　調査を受けた被爆者の一人です。人に話すのは初めてでした。問われるままに「あの日」とそれから、を振り返りました。３０年以上、自分の

心の中にだけあったのです。他の多くの方もそうでしょう。自分を責めつづけてきました。それが、原爆の生み出した地獄、人間が人間であり続けることを許さなかった、原爆の惨さです。はじめて、はじめて、気がつきました。

私たちの証言が、あのシンポジウムの場で共感を持って受け止められたと聞き、生きてきてよかった、生きてきた意味があった。初めてそう思えましたのです。

ゆあ　（証言者たちに向かい）ありがとうございました。

マサト　お前解決したのかよ。

ゆあ　いいえ。でも・・・。自分で解決します。だって、そうしなければ申し訳ないです。

マサト　ふーん・・・

ゆあ　（栗平に）続けてください。

S10

栗平　こうして、日本被団協や市民団体は、「あの日」と「その後」に原爆が人間にもたらした被害を聞き取り、国内外の人達に伝えてきました。核兵器の廃絶と被害者への国家補償をさらに強く訴えてきました。

マサト　すいません。国家補償って、やっぱりどうしてもお金欲しいってことじゃん、って思えちゃうんですけど。

栗平　戦争を始めて、その結果、原爆被害をもたらした国が責任を取るっていうのは、ごめんなさい、戦争はもう二度とやりません、って言って、被害を償います、ってことじゃないかなあ。

コイズミ　ごめんなさい、もう二度とやりません、そして償います、か。

栗平　みなさんは、岩佐さんの体験を勉強したと聞きました。その岩佐さんはこう書かれてます。

岩佐　国家補償とは何か。私に言わせれば、国が国民に対して、再び戦争の被害、再び被爆者をつくるようなことはしません、ということを約束することです。そこまでいかなければ、国家補償を唱える意味がありません。

カズミ　国家が戦争しないための、縛り、みたいなものってことか。

岩佐　死んだ人に補償してもらっても、死んだ人が生き返るわけじゃない。

マサト　そりゃ、そうだ。

栗平　被団協は、国家補償の精神に立った「原爆被害者援護法案のための要求骨子」、要点、骨組みみたいなものね、をまとめ、全政党にこの骨子をいれた援護法の作成を要請する行動を重ねました。そして、これに基づく法案をを全野党が共同して何度も国会に提出した。こうした運動の盛り上がりに対して、１９８０年「原爆被爆者対策基本問題懇談会」が意見を出したの。

ユウスケ　え？　長い名前だなあ。

栗平　略して基本懇ね。

ゆあ　こう言うのって時々、国民がわからないように、わざと難しくしてるって感じしちゃうよ。

カズミ　で、なんですか、これ？

栗平　国が各界の有識者を集めての懇談会。ちゃんと話し合って、被爆者対策のことを考えましたよ、で答えがこれですって。

コイズミ　その答えは？

栗平　国家補償は拒否されました。その理由は驚くべきものでした。それが受忍論。

マサト　だめだ、またわかんない。

栗平　受けて、忍ぶと書いて。受忍です。

＊映像　受忍論

カズミがスマホで検索していた。

カズミ　耐え忍ぶこと、被害を受けても我慢することなどを意味する表現。

S11

およそ戦争という国の存亡をかけての非常事態のもとにおいては、国民がその生命、身体、財産等について、その戦争によってなんらかの犠牲を余儀なくされたとしても、

49

それは国をあげての戦争による「一般の犠牲」としてすべての国民がひとしく受忍しなければならないところであって、国の法律上の責任を追及し、その法律的救済を求める道は開かれていないというほかはない。

50

栗平　「原爆地獄」のなかでのむごい死や、被爆者ゆえの不安と苦しみに満ちた人生。しかしそれは国をあげてやった戦争のためなのだから、仕方がない、それを我慢しろというのです。それから、およそ戦争の、およそって言葉。

ゆあ　私も、それなんか引っかかって。どういう意味ですか。

カズミ　ちょい待ち。（検索して）普通。ひととおり。一般的、例外なく。

マサト　じゃあ、どうなるの。

栗平　過去における原爆被害だけでなく、現在、未来にわたって、どの戦争で犠牲を強いられたとしても、国をあげての戦争なのだから、国民は我慢しろ、受忍しなさい。

ゆあ　憲法で戦争放棄しているのに！

マサト　ちょっと待って。
コイズミ　どうしたの？
マサト　ええ？　ちょっと待ってよ、混乱してるかも。
カズミ　考え決まってから喋りなよ。
マサト　いや、つまりさ、俺？
ユウスケ　俺？
マサト　俺もさ、戦争になったら我慢するの？
コイズミ　そう、だね。
マサト　死んじゃっても？　さっきから話を聞いてたみたいにあんなひどいことがあっても。ねえ、そうなの？
ユウスケ　そういうことみたいだな。
マサト　じゃあ、

ゆあ　原爆の話って歴史の話じゃなくて、今の私たちの話、なんですね。

戦争の音が聞こえ始める。

＊現代の戦争を想起させたくオスプレイの音、やがて戦闘音を使用した。

コイズミ　・・・核武装が安上がりって言って、選挙で当選した人いるじゃない・・・

カズミ　ええ…

コイズミ　きっと、自分が核攻撃受けるかもなんてこと、夢にも思ってないんだろうな・・・

S12

５１　援護法の制定を拒む本当の壁は、基本懇の意見の通り、国を挙げての戦争による国民の犠牲は、受忍すべきだとする国の政策にあることがはっきりした。

５２　これから起きる戦争さえも受忍論で括られる。何より戦争の可能性を国が示した。被団協や市民、法律家、多くの人が怒りを持って、動いた。

５３　「ふたたび被爆者をつくらない」ノーモア・ヒバクシャ。この道筋として、

＊以下、台詞に合わせて映像。

核戦争起こすな、核兵器なくせ

原爆被害者援護法を今すぐに

原爆被害者の基本要求

５３　「核戦争起こすな、核兵器なくせ」
５４　「原爆被害者援護法の制定を今すぐに」

＊５３、５４は三人で言ってもらった。

５５　この二つを掲げた「原爆被害者の基本要求」が生まれました。被爆者が国連を始め世界で訴えたことが国際世論を動かし、２０１７年、核兵器禁止条約が国連で可決。

栗平　しかし、今、この時、世界から核兵器は無くなっていません。

Ｓ１３

＊照明は全面を赤く、まさに原爆の音を使用。

原爆の音が再び響く。少し間があって。学生たち、冒頭のように模擬発表をしているようでもあり、何か考え込んでいるふうでもあり・・・

コイズミ　２０２５年は、広島長崎への核攻撃、原爆投下から８０年の大きな節目の年です。

カズミ　この人類未曽有の惨禍を被爆者自身が受け止め、核兵器の廃絶を求めてきた日本原水爆被害者団体協議会、被団協にその前年ノーベル平和賞が授与された。

ユウスケ　ノーベル賞委員会、ヨルゲン・フリードネス委員長による受賞理由は、「被団協が世界に向けて訴えてきた「証言」こそが、８０年近く核兵器が使用されてこなかった「核のタブー」を生み出した。」から。

マサト　・・・受忍論をいやだって言いたい。原爆いやだ核兵器いやだ、戦争いやだイヤダイヤダ。

ゆあ　しかし、今や世界は危機的状況に陥っている。ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、ウクライナへの侵攻前後から、核使用を辞さないと脅しをかける。

ユウスケ　イスラエルはガザ地区への核攻撃を示唆。

カズミ　中国はまさに核軍拡といった路線を走り、北朝鮮は新たな核開発を行っている。

コイズミ　アメリカは、国連総会で、ロシアのウクライナ侵攻を非難する声明に反対票を投じた。そして、自国の利益のため、他の国の領土を力によって奪おうとしている。

ゆあ　そして日本も。戦後８０年のまさにその年、首相官邸の幹部は、報道陣に対し、日本を取り巻く厳しい安全保障環境を踏まえ、個人の見解としつつ、「日本は核兵器を保有すべきだ」との考えを示した。

マサト　どうなっちゃうんだよ。

ユウスケ　自民党の元総裁、河野洋平は東京新聞の「私の８０年談話」でこんなこと言ってるのに。

河野　日本の将来の展望を語るなら、まず日本がこの８０年をどういう態度で歩んできたのか、振り返るべきです。戦後最初にやったことは日本国憲法の制定でした。憲法は平和を基本とし、自分たちだけが良ければいい

のではなく「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」としています。この８０年、その約束事がきちんと守られてきたのか、いま、違った方向に行っていないか、考えるべきです。過去は変えられず、変えてはいけないのです。そして、未来は努力によって望む姿にすることは可能です。今、国際社会が不安な状況の中、平和を目指す国のかたちを再構築することが「徳の政治」の復活にもつながります。

ゆあ

そんなふうにいう与党の政治家がいたんだ・・・

コイズミ

ヨーロッパの各国はじめ、世界も日本も大規模な軍備拡張に向かっている。ドイツは憲法を改訂して、軍事費大幅増額へ、フランスは「核の傘」をヨーロッパ全体に広げる方針を「核武装したヨーロッパ軍」という形で実現できないかを探っている。ヨルゲン・フリードネス委員長は、

フリー　核のタブーは、核兵器使用は、道徳的に容認できないという相互的・集合的合意、およびその規範を破ることで、人類に待ち受ける深淵に対する共通の恐怖によって維持されています。しかしながら、このタブーは脆く、特に時が経つにつれて、より脆く崩れ去る恐れもあります。

コイズミ　私怖い…

ユウスケ　え。

コイズミ　戦争やりやすい感じになってる気がして。

カズミ　わかる。核兵器だって、使ったらまずいから使わないだろうって感じしないもの。

ユウスケ　逆に、日本が攻撃されたらトランプ大統領が、核兵器のボタン押して追っ払ってくれる気もしない。

マサト　それ。

ユウスケ　トランプ？

マサト　違うよ。怖いっていうの。そうなんだ。怖いよ。

コイズミ　うん。

マサト　でも俺さ、今でも被爆者の人達の気持ちとか、声も残せず亡くなった人の思いとか、やっぱりわからなかったりする。

カズミ　あんたね。

マサト　いや辛かったんだろうと思うし、大変だったんだろうと思う。でも膜がかかっているみたいにさ、わかんないって言うか…

コイズミ　体験してないからってこと？　でも想像できるじゃない。想像が大切じゃないの？

ユウスケ　想像したらわかるなんてことは言えねえけどさ、それでも想像することはできるよ。

マサト　でもさ、一番の被害者だっていう、あの日、あの一瞬で亡くなった、根こそぎ消えちまった人たちの声を俺たちは、もう聞くことは出来ないだろ、永遠に。それをわかったフリなんてできねえよ。だけど、このままじゃいけないって気はしてる。

ゆあ　私たちは、今、私自身はどう生きるかって問題ですか。

マサト　ああ、そうかも。

ゆあ　私は、自分のこと。それからとか家族や友達。戦争になったら、どうなるんだろうって。

マサト　原爆のことを戦争を自分のこととして考えてみる。

ゆあ　はい。

ユウスケ　俺はそこにとどまりたくないな。なんかさ、自分がよりよく生きるって言うよりも、いい世の中になった方が、俺はいい。

マサト　じゃあどうすんだよ。

ユウスケ　それは…わからない。核兵器だって絶対ない方がいいけれど、なくなったら「核の傘」っていうのもなくなるだろう。それで大丈夫かどうなのか。わからないんだ。

コイズミ　そのために知らなきゃいけないんじゃないかな。

マサト　え。

コイズミ　もっと広島のことも長崎のことも。

S14

また栗平が登場していた。

コイズミ　栗平さん。

栗平　はい。

コイズミ　栗平さんは、たくさんの被爆者の方と寄り添って話を聞いてこられて。一番学んだことっていうか…

栗平　一言で言うのは難しいけど、でも…、私はやっぱり人間ってどういうふうに生きるものなのかなってことだと思う。あの、それは、抽象的なあれじゃなくて、具体的なこの社会で、この世界で…特に核兵器というね、ものが登場してしまってね、その核兵器を否応なく体験させられちゃった被爆者たちが（少し沈黙）、じゃあそういう時代に、本当に人間が生きていけるにはどうしたらいいのか。人間が人間らしく。さっきの話。目の前で苦しむ人を助けられなかったり、そういう苦しみを、一生持ち

続けてきたわけだから、それを、そんな体験をだれもしなくていいように、人間が人間として当たり前に生きられる世界にしたい。そういう世界を・・・、子どもや孫に残したいと思って生きている。

マサト　よくわかんなかったけど、すごくよくわかった。

ユウスケ　何いってるんだか、わからん。

マサト　俺は、当たり前に生きて、だから核兵器で殺されない。被爆者にもならない。そのためにどうすればいいか、これから考える。

ゆあ　私は、殺したくもないです。

マサト　え。

ゆあ　「核の傘」の下にいる日本が攻撃されて、攻撃した国に核が使われたら。

ユウスケ　アメリカが。

ゆあ　それは、私たちが核兵器を使ったってことじゃないですか。私、殺したくもないし、殺されたくもないです。

マサト　どうすればいいんだろう。

田中　被団協の田中熙巳です。私は、ノーベル平和賞受賞の挨拶でこう申し上げました。「想像してみてください。直ちに発射できる核弾頭が４０００発もあるということを。広島や長崎で起こったことの数百倍、数千倍の被害が直ちに現れることがあるということです。みなさんがいつ被害者になってもおかしくないし、加害者になるかもしれない。ですから、核兵器をなくしていくためにどうしたらいいか、世界中のみなさんで共に話し合い、求めていただきたいと思うのです。」まあ、その後、若い人たちと話すたびに、どこまで伝わっているのか心配になってますけどね。

コイズミ　声にしてみよう。

ユウスケ　え。

コイズミ　思ったり考えたりして。

ユウスケ　そして、それを声にしていく。

マサト　シンポジウムでも、飯食いながらでも、ＳＮＳでもなんでもいいか。まずはそれだな。

ユウスケ　飲み屋でいっぱいやりながらも、ありにしてくれ。

マサト　おう。

カズミ　でも、その前に、今、ここにある被爆者の声をもっと知らなきゃ。

ユウスケ　そりゃそうだ。

コイズミ　本もいっぱい出てるし、被団協や継承する会のホームページにだって、他にもたくさんある。

和田

被団協・和田征子です。私はノーベル平和賞受賞にあたってこう申し上げました。

「私たちが思うのは、本当に実相を知ってほしい、核兵器が使われたらどういうことになるか、それを知ってほしいということです。それをみんなが分かるようにするにはどうしたらいいか。いまこの受賞が決まって、被団協が被爆者が何に苦しみ、何をしてきたのかというのを、やっぱり一生懸命これは伝えるべきであるということ、これが一つの大きなチャンスになるというふうに思っております。若い方々は、それに心を寄せていただければ。機械的なものではなく、血の通ったものと言ったらおかしいのかも知れませんが、そういうふうな思いで、本当にご自分たちのこととして受けとめておいていただければ、と思っております。」

証言者たちが立ち上がる。

５６

私たちは何年後かに死ぬわけです。言い残したいことがあります。国民の一人ひとりが「おかしい」と思ったら自分でよく考え自分でものを言わなければ駄目です。特に若い人にそうあってほしい。

５７

私や長崎の被爆者、よく「受忍」と言われました。今はそれではいけないと思います。これからは声を大にして、苦しみ痛みを全世界の人に伝えたいです。戦争はダメ！

５８

戦争だけはどんなことがあってもやってはダメ！　戦争にかける国家予算と尊い人命、そして凄まじい、凄いエネルギーを平和外交に振り向けてそれに徹すれば、武力行使以外に方法がないという事態にはならない。

59 被爆者運動の先達たちの顔、顔、顔が目に浮かぶ。「安らかに眠ってください」とまだ言えないのがつらい。

60 世界に誇れる憲法九条を変えてまで、戦争できる国にしてほしくない。

61 今の政治家は、戦争の恐ろしさや、貧乏の苦しみなど味わったことのない人たちだから、人の心の痛みや、苦しみなどが、分からないのではないでしょうか。

62 筆舌につくせない体験でした。しかし、被爆者が体験を語るのは被害者意識からではありません。このような苦しみを二度と世界中の人々に追わせてはならないと願うからです。

フリー ヨルゲン・フリードネスです。被爆者の人たちの証言、彼らの個人的な体験談が、歴史を人間的なものにしてくれます。彼らは「そこにいた人たち」と「歴史の暴力に触れていない私たち」との橋渡しとなり、その

距離を縮めてくれるのです。彼らはまさに問題の深刻さ、何が危機に瀕しているのかを思い起こさせてくれる存在なのです。

松本　どうも松本です。

学生たち　うわ。

松本　課題はどうですか。あ、提出は来週よろしくお願い。

マサト　間に合うかよ。

コイズミ　そうよ。

ユウスケ　そうです。

カズミ　時間が必要です。

ゆあ　先生、私たちはようやくスタートラインに立ったんです。

松本　いいじゃないか。何度でも書き直せば。それじゃよろしく。

学生たちの裡から声が溢れてくる。

マサト　読んでみよう。
コイズミ・ゆあ　話してみよう。
マサト・コイズミ・ゆあ・ユウスケ　聞いてみよう。（証言者たちに）すいません。もっともっと、話聞かせてください。

S15

学生たちが証言者に話しかける。それぞれ話の輪が広がる中、栗平が現れる。何か資料を持ってきているようだ。学生たち1冊ずつ受け取る。読み始める。

＊以下、鉤括弧は資料のタイトル。

コイズミ　「被爆者からあなたに　今、伝えたいこと」　核兵器禁止条約が２０２１年1月２２日に発効しました・・・

マサト　「原爆被害者の基本要求　ふたたび被爆者をつくらないために」　原爆は、人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許しません・・・

ユウスケ　「被爆者として言い残したいこと」　若い学生たちが、次々と命を落としていった現実。国のためとは何だったのか。（違うページ）二度と戦争をしては　ならぬ。この言葉が総て・・・

カズミ　「証言活動のしおり　被爆者の願いを人類の記憶に刻み込むために」　広島・長崎よりも、もっとおそろしいことが起きる。それは、世界の人々がヒロシマ・ナガサキの出来事とその教訓を忘れるときです・・・

ゆあ　「そこに声があれば　今　未来に」（歌い出す）炭になった弁当　焼き付いた影　止まった時計

歌が始まった。やがて「声」は一つの歌になっていく。

そこに声があれば　歌詞　山谷典子　作曲　高崎真介

1　炭になった弁当　焼き付いた影　止まった時計
そこには暮らしがあった　声があふれてた

どこに声があった？
青空の下に

8月6日のあの子　9日のあの子
長い時間あきらめず　コツコツ集めた　たくさんの記録
そこには過去に触れられる　声があふれてる

そこに声があるよ
耳傾けよう
そこに声があるよ
ページを繰ろうよ

＊それぞれの資料などの映像を間奏中に映した。

2　当り前の暮らしは　祈りと歩み　足元にあり

二度と戦争にしない　声で作られる

声を見失えば
歩みは途切れる

被爆者たちの声は　世界に広がり
核兵器と人類は　共存できない　させてはならない
生き延びるための真（しん）の道　声があふれてる

そこに声があれば
バトンをつなげる
一筋の光は

過去から繋がる

＊後奏の最後に映像、そこに声があれば　今　未来に

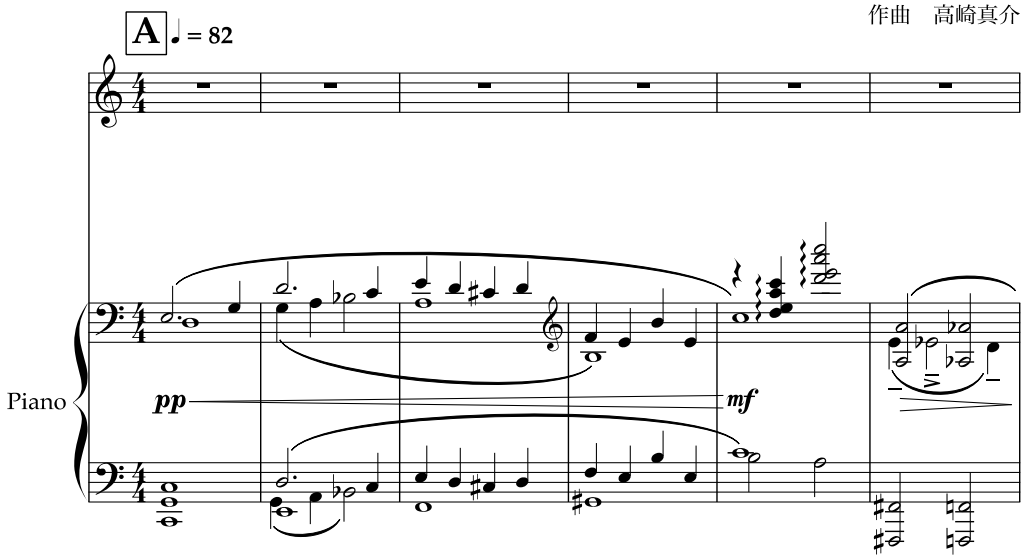
終わり

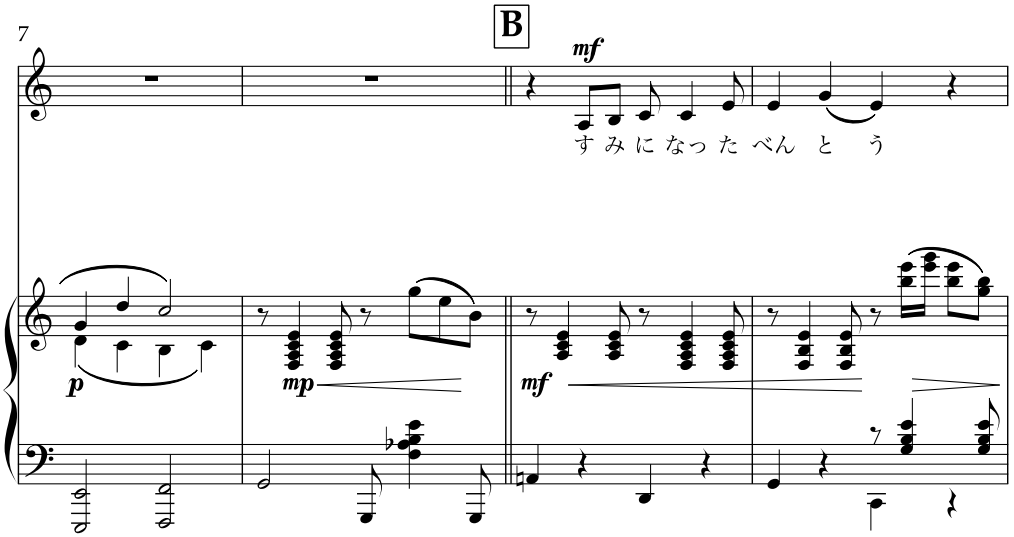
台本協力　栗原淑江　福山啓子　山谷典子

この公開版６０分バージョンは、初演時の台本、４０分バージョンに加筆したものです。

そこに声があれば

作詞　山谷典子
作曲　高崎真介






2
学生
11
mf
やきついた かげ とまったとけい そこにはー
f
14
p
くらしが あーった こえが あふれてた ー
8va
mf
17
C
学生
mp
どこに こえがあった？あおぞらの もとに
mf


19
mp
D
はちがつむいかのあのこ
ここのかの あのこ
p
21
ながいじかん あきらめず コツコツあつめたたくさんのきろく
23
mf
そこには かこにふれられるー こえが あふれてる
mf
p

4



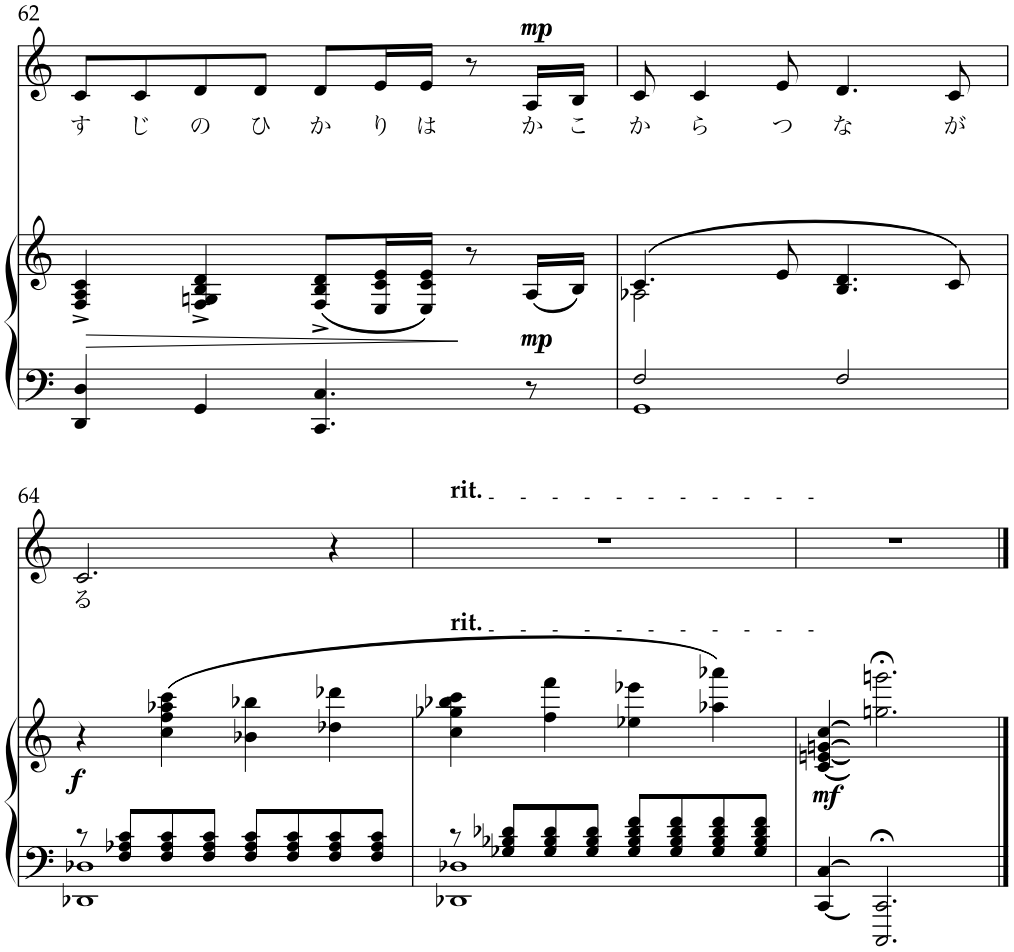

37
G
mf
あたりまえの くらしは
いのりとー あゆみ
mf
40
mf
p
あしもとに あり
にどとせんそうに しない
f
p
43
H
mp
こえで つくられる ー
こえをーみうしなえば あゆみは
8va
mf
mp

6


46
I
mp
と ぎ れ る
ひ ば く しゃ た ち の こ え は
mf
p
48
せ か い に ー ひ ろ が り
か く へい き と じん るい ー は
50
mf
きょ う ぞん で き ない さ せ て は な ら な い
い き の び る た め の し ん の み ち
mf


7
53
こえが あふれてる
そこに こえがあるよ バト
56
ンを つなげる ひとすじのひかりは かこから つな が
59
る そこに こえがあるよ バトンを つなげる ひと

8



2025年　9月15日

○主な引用・参考文献

「原爆被害者の基本要求―ふたたび被爆者をつくらないためにー」　日本原水爆被害者団体協議会

「証言活動のしおり」　日本原水爆被害者団体協議会

「日本被団協６０年の歩み」　日本原水爆被害者団体協議会

「被爆者からあなたに　いま伝えたいこと」　日本原水爆被害者団体協議会編　岩波ブックレット

「ヒバクシャの心の傷を追って」　中澤正夫　岩波書店

「被爆者の人生と対話する人々」2021 年　編集・発行　立教大学社会学部　小倉康嗣研究室

「原爆をまなざす人びと」　松尾浩一郎・根本雅也・小倉康嗣　新曜社

「核抑止論の虚構」　豊下楢彦　集英社新書

「ノルウェー・ノーベル委員会　ヨルゲン・ヴァトネ・フリードネス会長によるスピーチ」
https://www.nobelpeaceprize.org/getfile.php/137203-1733759781/_Dokumenter/Presse/2024/Joergen_Watne_Frydnes_Speech_Japanese_translation.pdf

著作権 © The Nobel Foundation, Stockholm, 2024.

「日本原水爆被害者団体協議会」ホームページ　http://www.ne.jp/asahi/hidankyo/nihon/

「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」ホームページ　https://www.nomore-hibakusha.org

「昭和女子大　学生プロジェクト　戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」
https://slabo.swu.ac.jp/projects/2018-sengosi.html

「広島平和記念資料館は問いかける」　志賀賢治　岩波新書
「原子力　その神話と真実」　リチャード・カーチス／エリザベス・ホーガン
訳＝高木仁三郎・近藤和子・阿木幸男　紀伊国屋書店
「被曝の世紀　放射線の時代に起こったこと」　キャサリン・フィールド　訳＝友清裕昭　朝日新聞社

＊２１pの山口みさ子さんの発言は、「放送文化資産」としてＮＨＫアーカイブスで視聴できます。
https://www2.nhk.or.jp/archives/articles/?id=C0110596&column=hidden

＊他、多くの文献、web サイトを参照し、また「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」の栗原淑江さんはじめ、多くの方々にお話を伺いました。感謝いたします。（丸尾）

○初演上演記録

「核兵器も戦争もない世界を求めて～記憶を受け継ぎ未来へ～」　ホール企画として上演。
２０２６年１０月１１日（土）　有楽町朝日ホール
脚本・演出／丸尾聡　劇中歌　歌詞／山谷典子　作曲／高崎真介

出演

コイズミ／小泉美果（青年劇場）　マサト／中川隆太　ユウスケ／城戸啓佑（インボイス制度を考える演劇人の会）
カズミ／山西未紗（ワイズプロダクション）　ゆあ／櫻井優凛　栗平／西山水木　岩佐幹三／龍昇（龍昇企画）
母／重田千穂子（テアトル・エコー）　男・松本／吉村直（青年劇場）　山口みさ子／崎田和子（東京芸術座）
ヨルゲン・フリードネス／渡辺克己
「証言者」やほか大勢の人々／浅倉いづみ、斎藤とも子（アニマ・エージェンシー）
関根麻帆、田中美樹（日本生協連）　橋本舞（ピースボート）、廣瀬綾、松村真澄（ピースボート）

スタッフ

照明／阿部康子　音響／山崎哲也　舞台監督／佐瀬 佳明（劇団ぱれっと）　舞台監督助手／たかのきよこ（東京芸術座）
台本協力／栗原淑江　福山啓子　山谷典子

本戯曲は、著作権法によって保護されています。上演、集会、勉強会などでの使用は、原則無料としますが、「使用のご案内」をお読みいただき、許諾を得てください。

連絡先　記憶をつけつぐ演劇人の会）
keisyouengeki@gmail.com

使用のご案内

日本被団協ホームページ
http://www.ne.jp/asahi/hidankyo/nihon/

NPO 法人　ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
https://www.nomore-hibakusha.org/　　）